

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	令和6年度第1回松阪市行財政改革推進委員会	
2. 開 催 日 時	令和7年2月6日(木) 10時00分~11時50分	
3. 開 催 場 所	松阪市役所本庁舎本館 5階右側第1会議室	
4. 出席者氏名	委 員	中畑 裕之 (委員長) 中北 直子 深井 英喜 松浦 信男 村田 善清
	事務局	近田 雄一 副市長 藤木 洋司 企画振興部長 中井 弘明 デジタル未来戦略局長 兼市政改革課長 新田 浩隆 市政改革課行革DX担当主幹 兼行革DX係長 奥田 葵 市政改革課行革DX係主任 世古 貴彦 市政改革課行革DX係員
	行財政改革 推進チーム	三村 幸也 情報システム課長 世古 元志 地域づくり連携課長 尼子 宗成 人事・行政担当参事兼総務課長
5. 公開及び非公開	公 開	
6. 傍 聴 者 数	1名	
7. 担 当	松阪市企画振興部デジタル未来戦略局市政改革課 TEL 0598-53-4363 FAX 0598-25-0825 e-mail shisei.div@city.matsusaka.mie.jp	

協議事項・議事録 別紙

## 令和6年度 第1回松阪市行財政改革推進委員会 議事録

と き：令和7年2月6日（木）10時00分～11時50分

と ころ：松阪市役所本庁舎議会棟 第3・第4委員会室

出席者：中畑裕之（委員長）、中北直子、深井英喜、松浦信男、村田善清

事務局：副市長 近田雄一、企画振興部長 藤木洋司、デジタル未来戦略局長兼市政改革課長 中井弘明、市政改革課行革DX担当主幹兼行革DX係長 新田浩隆、市政改革課行革DX係主任 奥田葵、市政改革課行革DX係員 世古貴彦

推進チーム：情報システム課長 三村幸也、地域づくり連携課長 世古元志、人事・行政担当参事兼総務課長 尼子宗成

傍聴者：1名

- 事 項：1. 委嘱状交付
2. 松阪市の行財政改革の取組について
  3. 松阪市DX推進計画について
  4. その他

（10時00分開始）

事務局

---

ただいまから、令和6年度第1回「松阪市行財政改革推進委員会」を開催する。本委員会の議事に先立ち、委員に委嘱をさせていただく。本来は市長から委嘱状を交付させていただくべきところだが、市長は別公務のため、近田副市長から交付させていただく。

### 1. 委嘱状交付

近田副市長

---

各委員に委嘱状を交付

事務局

---

委嘱期間については、本委員会規則に則り、令和6年12月24日から令和8年3月31日までとさせていただくのでよろしくお願ひしたい。続いて、近田副市長からご挨拶申し上げます。

近田副市長

---

本日はご出席いただきお礼申し上げます。また日ごろより、本市の行政運営に関して、何かとご協力をいただいていることを、重ねてお礼申し上げます。

私たちの社会については、コロナ禍を境としてデジタル化をはじめ、社会は大きく変わっているように感じている。

今年度の初めに、市長から職員に対して「DXとは働き方改革である。いずれ職員のみなさんがやっている作業はAIができるようになる。これからの職員に残る仕事はカスタマーサービスである。市民に寄り添って市民の困りごとを解決していく方向に市役所の仕事はシフトしていく」といった訓示があった。

職員がしなければならない仕事は、日々変化している。こういった社会の変化に取り残されないよう、松阪市としても必要な行財政改革を進め、職員の働き方を変えていかなければならないと、切に感じているとともに、職員もチャレンジさせていただいている。

本日の委員会では、本市の行財政改革やDXの取組についてご説明申し上げます。委員の皆さまには、さまざまなお立場から、是非、忌憚のないご意見を頂戴できればと思っています。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

#### 事務局

---

近田副市長は、他の公務によりここで退席させていただく。では、委員の皆様からそれぞれ自己紹介をいただきたい。

#### 委員

---

各自、自己紹介

#### 事務局

---

続いて、委員長及び副委員長の選任をお願いする。委員長及び副委員長は、本委員会規則第4条の規定により、委員から互選となっているが、事務局から提案させていただきたい。

#### 委員

---

異議なし。

#### 事務局

---

委員長に、高田短期大学・三重短期大学非常勤講師の中畑委員、副委員長に本日欠席ではあるが松阪市住民自治協議会連合会会長の水谷委員をお願いしたい。ご賛同いただける委員は拍手をお願いする。

#### 委員

---

拍手

## 事務局

---

それでは、ここからの議事進行については、本委員会規則第5条の規定に基づき、委員長にお願いします。なお、本委員会の資料の確認は、お手元にお配りしたタブレット端末にてお願いします。

## 2. 松阪市の行財政改革の取組について

### 委員長

---

では、事項2を開始する。松阪市の行財政改革の取組について、事務局の説明をお願いします。

### 事務局

---

『松阪市行財政改革推進方針 2021』アクションプラン（令和4年度取組結果及び令和5年取組）、郵便局への窓口業務委託、公共施設マネジメント、市役所の窓口受付時間の変更について説明。

### 委員長

---

事務局の説明に対し、委員から質問や意見等あればお願いします。

### 委員

---

公共施設マネジメントの関係で説明があった小中学校の統廃合について、地域づくりの観点からの評価をされていればお聞きしたい。他で同様の事例がある地域からは、小中学校がなくなってからの人間関係とか、コミュニティの存続に関わってきている声を聞く。

### 事務局

---

この取組は、公共施設マネジメントの一環として挙げているが、教育委員会事務局の目的は効率化よりも少人数学級の解消である。一定の規模以上の学習環境が必要ではないかという前提で見直しがされている。小学校区単位で住民自治協議会があるが、小学校の統合だけで住民自治協議会の活動範囲が変わるとは考えていない。統合した場合、残った旧小学校をどう活用していくかは課題である。解体や売却ではなく、公民館活動や住民自治協議会の活動場所といった活用もあるのかと考えている。

### 委員

---

コミュニティの形成について、住民自治協議会は市役所との付き合いがある住民団体である。小中学校で問題になるのは、放課後の子どもの居場所をどうするか、また住民自治協議会などに参加しない、できない方のコミュニティのあり方というのは課題にな

と考える。そういった視点も忘れないように検討いただきたい。

委員

---

市民病院の指定管理制度導入について、これは市民病院の職員は公務員ではなくなるということか。

事務局

---

ご認識の通り。

委員

---

組合等から反対は出ていないのか。

委員

---

職員が大量退職したら病院が運営できなくなるおそれもあるが、そういった心配はないか。

事務局

---

地域の医療全体でみて、単に辞められるのではなく、地域の医療従事者として残っていただけるような視点は考えている。

委員

---

廃止した保育園等の売却について、具体的にどういったところにどういったかたちで使っていただくなどの想定はあるのか。

事務局

---

売却にあたって、建物付とするか更地にするかという観点もある。実際に売却する場合は基本的には入札となるだろうと考えている。

委員

---

ふるさと納税で目標が 20 億としてされたが、去年は 17 億との結果とのことであった。それについてどうお考えか。

事務局

---

ふるさと納税は平成 27 年から始まっており、当時は 1 億 3 千万円程度の寄付額であった。制度の認知度が向上したこと、松阪市には松阪牛というブランドがあることなどから、ふるさと納税額は伸びている。高い目標を設定していた結果として、達成はして

いないが高い寄付額を得ていると認識している。

#### 委員

---

返礼品は松阪肉が多いと思うが、その他の品は。

#### 事務局

---

本委員会の事務局では詳細は把握していないが、地域の企業の食品、製品などが返礼品として指定されているものとの認識である。

#### 委員

---

宮崎県都城市がふるさと納税のトップをとられていたと思う。1位になったから凄いのではなく、お金の使い道を子育てに充てられている。寄付額に一喜一憂せずに、どのように使われているかをもっと前面に出してもよいのではないか。寄附金をこんなことに使っているというアピールになる。郵便局への業務委託について、高齢の方に対しての手続きが多いと思うが、郵便局職員への質問も多くなってくのではないか。それによって郵便局職員の業務が増えることはないか、その一方で郵便局と地域住民の結びつきが強くなるという側面はどうか。

#### 事務局

---

ふるさと納税の用途は、寄付者が指定されるのが一般的だが、昨年度では最も多かったのは子どもを対象とした取組への寄附である。それに続くのがみえ松阪マラソン、あとは「市長にお任せ」という選択肢もある。見せ方は継続的に考えていきたい。郵便局への業務委託は、総務省も推奨している。特に過疎地域は郵便局が唯一の金融機関というところもある。郵便局が行政の仕事を受けることで、地域とのつながりをもちながら、局の存続につながればと考える。

#### 委員長

---

私からも質問させていただく。行革チャレンジ枠の状況をお聞きしたい。また、職員の専門的知識の継承についてどうお考えかお聞きしたい。また、これは意見だが、アクションプランについて昨年のもものと今年のもものがどう変わったのか、そういった一覧があると良いと考える。

#### 事務局

---

令和5年度に行革チャレンジとして位置付けた事業は、道路照明のLED化、人事評価システムの導入、支払いWeb明細化などが対象であった。アクションプランの記載方法については、次年度に向けて検討させていただく。

委員長

---

専門的な知識の引継ぎについての配慮は。

事務局

---

人事に関しては、採用後 10 年で 3 か所という異動を行っているが、今後はゼネラリスト育成だけではなく、特定の分野ではスペシャリストの育成も必要と考えている。

委員長

---

では、以上で事項 2 を終了する。

### 3. 松阪市 DX 推進計画について

委員長

---

続いて、事項 2 を開始する。松阪市 DX 推進計画について、事務局の説明をお願いする。

事務局

---

松阪市 DX 推進計画に掲げている各取組の成果指標進捗状況について説明。

委員長

---

事務局説明に対し、意見や質問等は。

委員

---

成果指標が適切なのかわからないものがあった。例えば、オンライン申請の促進に関する指標について、オンライン申請の使用率は市民 3000 人アンケートのデータをもとにしているのか。

事務局

---

オンライン申請の促進に関する指標は 2 点設けており、1 点目のオンライン申請をしたことがある市民の割合は 3000 人アンケートのデータを使っている。2 点目のオンライン申請の使用率は、市が設けているオンライン申請総合窓口「ちゃちゃっと手続き」に掲載している手続きの数を母数とし、どれだけの手続きでオンライン申請に使われているかを測定している。

委員

---

窓口にもオンライン申請用の端末が置かれているか。

## 事務局

---

窓口で端末は置いておらず、市民がご自身のスマートフォンやパソコンを使っていたことになる。

## 委員

---

3000 人市民調査について、抽出した市民アンケートを成果指標に持ってくるのは問題があるのではないかと考えられる。抽出が適切にできているか、また帰ってきた回答に偏りが無いかという点をしっかりチェックしておく必要がある。数字は独り歩きしてしまうので、根拠にする数字は厳密でなければならない。また、保育園連絡のオンライン化という取組がある。保育園でデジタルに精通している人材を確保する、または養成するような取組はあるか。保育園の現場でデジタルを適切に扱える人がいなければ、送られてくる情報が良くない場合もある。継続的な体制維持は必要である。

## 事務局

---

現場での取組について詳細に把握しかねる。ご指摘の点は担当部局にも共有させていただく。

## 委員

---

RPA で削減された時間数が増えている。大きな伸びだが、具体的に何をされているか。

## 事務局

---

データ入力について、職員が行っていたものを RPA により自動化している。その累計を削減時間数としている。

## 委員長

---

DX 化で浮いた時間、削減できた時間はどれだけあって、それをどのように利用されたのか、把握されているものがあれば教えていただきたい。

## 事務局

---

例えば RPA 導入などで削減できた時間数は比較的算出しやすいものとするが、実際、削減時間は見た目上わかりにくいところではある。オンライン申請が可能なものでも、紙の申請と並行で動いており、逆に手間になっているのではないかという部分がある。長期的にみたら紙の申請が減って効率化できるものとするが、現在は過渡期の部分で成果としては把握しづらいところがある。

委員長

---

他に何かあるか。

委員

---

なし。

委員長

---

では、以上で事項3を終了する。

#### 4. その他

特になし。

以上